

コンクールに向けて、 親はどう対応？

～参加に向けて必要な親の3つの心構えとは～

「子供のコンクール体験は親次第といつても過言ではありません」と語る渡部由記子先生。これまでにピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会へ200名以上の生徒が出演し、そのうち6割以上が受賞しているという渡部先生が、コンクールに参加する生徒の親に必ずお話ししている3つの心構えについてお聞きする。



Yukiko Watanabe

渡部由記子先生

わたなべゆきこ◎9才よりピアノを始める。田村宏、田辺緑、谷康子の諸氏に師事。1972年、東京芸術大学ピアノ科を卒業。ピティナ・ピアノコンペティション全国決勝大会へ、1989年から2006年までに生徒が合計227名出場し、そのうち143名(6割強)が受賞している(金賞21名、銀賞25名、銅賞25名、他の賞72名)。自身もコンペティション指導者賞を18年連続受賞。他に、特別指導者賞を4回受賞、優秀指導者賞受賞。全国各地でレッスン・講座を開催。全日本ピアノ指導者協会評議員、全国決勝大会審査員、指導法研究委員、ステップ担当者連絡会委員、ステーション育成委員。元洗足学園大助教授。日比谷ゆめステーション代表。ホームページ: <http://www.yukiko-w.com/>

子どもの可能性に勝手に 線引きをしない

お子さんがコンクールに参加される場合、まず

一番初めに気をつけていただきたいのは、お子さんの能力や結果に対して、けつして決め付けや思い込みをしないことです。子供の無限の可能性に対しても、「どうせだめだ」などの諦めの言葉は絶対に口にしないでください。親が少しでも否定的な態度を見せるとき、子供にもすぐにそれが伝わってしまいます。体力重視のスポーツでさえ、結果は10%の技・10%の体力・80%は心で決まる、というのですから音楽においていかに「心」の部分が大切になってくるかは明らかです。子供が最高の演奏をしていて自分をイメージできるような環境を作つてあげることは、親の役目なのです。

怒らず叱らず、 長所のみに光をあてる

次に、怒ったり叱ったりせず、必ず讃めてあげること。自信は、人から言われて初めてつくものです。虫眼鏡を持ってでも子供の良いところを探してあげ、やらないことを責めるのではなく、やったことを認めてあげるのです。例えば3つの長所と2つの短所があったとすると、長所を30、300、3000…などとばしていつてあげることで2つの短所は気にならなくなる。「欠点をなおす」ではなく、長所に光を当ててあげることを考えてあげてください。

目標を持てる ように手助けを

コンクールに向けての、段階別精神サポート

【本番数週間前】 人前での演奏機会を多く作ってあげる

ステージの疑似体験をさせてあげましょう(家でお客さんの前で弾く、レッスンの前後に人前で弾く、学校で弾くなど)。この時、本番と同じようにきちんとおじぎをさせて、演奏も録音しておくとなおよいでしよう。

【本番前日】 子供の前で不安を見せない

子供は親の不安を敏感に感じ取ってしまうので、子供の前ではゆったり、どっしりとしていることが大切。「明日は楽しみね」などの肯定的な言葉がけは必ず忘れないでください。

【本番当日】 試みて、急かさない

出かける直前の練習では、必ず試みてあげてください。上手く弾けなかった箇所は、ゆっくり弾かせて、すかさず試みます。子供の本番前の不安をいかに取り除けるかも、親にかかっているのです。

そして、コンクールに向かう途中や会場では、「早くしなさい」などとは絶対言わず、必ず時間と気持ちにゆとりを持たせてあげてください。

【本番直前】 どんな状況でもポジティブシンキング

とにかくどんなことにも肯定的な態度を。演奏順が1番目でも、「早く終わってよかったわね」、最後でも、「全員の演奏を聴いてから弾ける!よかったね」と、何に対してもそれが最高の状態だと思うこと。たった一言の否定的な言葉が演奏に大きな影響を与えてしまいます。

【いよいよステージへ】 最高の演奏に向けて

ステージ袖で待っている時、本人が3つの気持ちを持っていることが大切:

- ①「私は一生懸命練習した!」
- ②「今から自分の最高の演奏をお聞かせします」
- ③「皆さん、どうぞお聞きください!」

どんなに練習してもミスは起こるもの。しかし、そこでお子さんが「ミスをしたとしてもトータルでは最高の演奏をするんだ!」と思って本番に挑めるように、どんな小さな不安でも打ち消してあげるような言葉がけを最後まで忘れないようにしましょう。

最後に…コンクールは、
最高の親になるための訓練

結果はどうであれ、コンクールに参加するということは、目標達成する方法を学ぶことです。こういった努力の方法を早い段階から知ると、後の人生のあらゆる面で生きていきます。私は、コンクールは幸せのためにあると思っていました。ここでいう幸せとは、苦労をしないことではありません。困難が立ちはだかったときに「自分は乗り越えられる!」と思えるよう成長すること、そして自分を信じる心をもつことなのです。

また、このような体験は親自身の成長にもつながります。コンクール後、「子供との接し方を学びました!」とおっしゃる親の方は実際に多いです。子供がコンクールに参加することは、最高の親になる訓練が出来るということだと思います。



「楽譜のところどころを隠すことで、曲の構成なども考えるようになります。こちらも、生徒さんのご両親と一緒に作っていただいたものです」



必要な表現に応じて色分けした楽譜。
これも親子協力して作る。



目標設定: 目指すものを写真や絵にして部屋に貼っておくことで、遠い目標に向かっても頑張れる

最後は目標設定です。まずは、コンペ本番時点でのお子さんの理想像をイメージしてください。そして、今現在のお子さんの状態と比べ、目標に達するためには、何月までにどの状態にまでいいかを、段階的に、そして具体的に考えるお手伝いをしてあげましょう。そのように、子供に合った高さの階段をひとつひとつ作つあげて、本番までの地図や道しるべを示してあげてください。レッスンで注意された点を箇条書きにして、家で練習する時にわかりやすく示してあげたり、家で15分や20分単位で、練習後にシールをあげたり、ある程度がんばったら褒美をあげる。のようにして努力する楽しさをこまめに体验させてあげるのもひとつ手ですね。